

認知症介護実践研修(実践者研修)のねらいとカリキュラム

目標	施設、在宅に関わらず認知症の原因疾患や容態に応じ、本人やその家族の生活の質の向上を図る対応や技術を修得する。
----	--

対象者	認知症に関する基本的な知識・介護技術を習得している者であり、かつ介護現場経験が2年以上の者
-----	---

	科目	到達目標(行動目標)	内 容	区分	時間
1 認知症ケアの基本的理解	(1) 認知症ケアの基本的視点と理念	高齢者施策における認知症ケアの方向性と位置づけを理解し、個人の尊厳を重視する認知症ケアの理念の構築を促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施策と認知症介護実践者研修等の位置づけ</li> <li>・認知症ケアの歴史の変遷</li> <li>・認知症ケアの理念構築</li> <li>・自己課題の設定</li> <li>・広島県の認知症施策</li> </ul>	講義 + 演習	180分
	(2) 認知症ケアの倫理	認知症ケアの倫理の理念や原則を理解し、日常的なケア場面での倫理的課題と本人や家族の意思決定や意思表出の判断の根拠を踏まえ、支援のあり方について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの倫理の理念や原則に関する基本的知識</li> <li>・日常のケア場面における倫理的課題と支援のあり方</li> </ul>	講義 + 演習	60分
	(3) 認知症の人の理解と対応	加齢に伴う心身の変化、疾病、認知症の原因疾患、中核症状、心理的特徴を理解した上で、行動・心理症状(BPSD)の発生要因と実践場面での対応を理解し、認知症ケアの実践につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病</li> <li>・認知症の原因疾患</li> <li>・若年性認知症</li> <li>・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)</li> </ul>	講義 + 演習	180分
	(4) 認知症の人の家族への支援方法	在宅で介護する家族支援を実践する上で、その家族の置かれている状況や介護負担の要因を理解し、必要な支援方法が展開できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族介護者の理解</li> <li>・家族の心理と家族を支える方法</li> </ul>	講義 + 演習	90分
	(5) 認知症の人の権利擁護	権利擁護の観点から、認知症の人にとって適切なケアを理解し、自分自身の現状のケアを見直すとともに、身体拘束や高齢者虐待の防止の意識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護の基本的知識</li> <li>・身体拘束や高齢者虐待防止法</li> <li>・権利擁護のための具体的な取組み</li> </ul>	講義 + 演習	120分
	(6) 認知症の人の生活環境づくり	住まいの様式、介護者の関わり方など認知症の人を取り巻く生活環境の構築や改善のための評価方法や調整方法を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人と環境の基本的知識</li> <li>・環境改善の評価と具体的な取組み</li> <li>・環境のリスクマネジメント</li> </ul>	講義 + 演習	120分
	(7) 地域資源の理解とケアへの活用	関係職種、団体との連携による地域づくりやネットワークづくり等を通じて、既存の地域資源の活用や認知症の人の暮らしを支える地域資源の開発の提案ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアの理解</li> <li>・インフォーマル・フォーマルな地域資源の理解と活用</li> <li>・地域資源の活用方法の実際</li> </ul>	講義 + 演習	120分
2 認知症の人への具体的な支援方法と展開	(1) 認知症の人とのコミュニケーションの理解と方法	認知症の人とのコミュニケーションの基本的知識を理解し、中核症状の特徴や進行に応じたコミュニケーション方法を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人とのコミュニケーションの基本的知識</li> <li>・認知症の人とのコミュニケーションの場面と方法</li> </ul>	講義 + 演習	120分
	(2) 認知症の人への非薬物的介入	非薬物的介入やアクティビティプログラムなどの支援の取組みを認識しつつ、認知症の人の心理的安定や生活の質を向上するための活動についての理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の非薬物的介入やアクティビティ等の基本的知識と具体的な取組み</li> <li>・認知症の人への介入の評価方法</li> </ul>	講義 + 演習	120分
	(3) 認知症の人への介護技術Ⅰ(食事・入浴・排泄等)	食事・入浴などの基本的な生活場面において、中核症状の影響を理解した上で、日常生活の安全・安心の向上、健康の維持増進を図りつつ、認知症の人の能力に応じた自立支援の実践ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人への食事、入浴、排泄ケアの考え方</li> <li>・失行、失認、見当識障害がある人への対応方法</li> </ul>	講義 + 演習	180分
	(4) 認知症の人への介護技術Ⅱ(行動・心理症状)	認知症の人の行動の背景を理解した上で、認知症の行動・心理症状(BPSD)に対してチームで生活の質が高められるような支援方法を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・攻撃的言動、徘徊、性的逸脱、不潔行為、帰宅願望等への対応方法とケアチームの連携</li> <li>・行動・心理症状(BPSD)の対応方法とケアチームの連携</li> </ul>	講義 + 演習	180分
	(5) アセスメントとケアの実践の基本Ⅰ	認知症の人の身体要因、心理要因、認知症の中核症状の要因のアセスメントを行い、具体的なニーズを把握することができるようアセスメントの基本的視点を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントの基本的視点・ケアの実践のための基本的視点</li> <li>・アセスメントの手法に関する考え方</li> </ul>	講義 + 演習	240分
	(6) アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ(事例演習)	アセスメントを踏まえた目標の設定と、目標を実現するためのケアの実践に関する計画の作成・立案ができる。チームでケアの実践に関する計画の評価やカンファレンスを行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定の考え方・ケアの実践に関する計画作成</li> <li>・ケアの実践に関する計画の評価とカンファレンス</li> </ul>	講義 + 演習	180分

	科目	到達目標(行動目標)	内 容	区分	時間
3 実習	(1) 自施設における実習の課題設定	認知症の人が望む生活の実現に向けて適切なアセスメントを通じた課題と目標を明確にし、ケアの実践に関する計画を作成する。	・自施設実習のねらい ・対象者の選定と課題設定 ・ケアの実践に関する計画作成	講義 + 演習	240分
	(2) 自施設実習(アセスメントとケアの実践)	研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができる。アセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケアの実践に関する計画やケアの実践を展開できる。	・実習課題に沿ったアセスメント、目標設定、ケアの実践に関する計画作成、ケアの実施、モニタリング	実習	4週間
	(3) 自施設実習評価	アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し今後の課題を明確にすることができる。	・アセスメントやケアの実践に関する計画の評価、分析 ・ケアの実践の報告	講義 + 演習	180分

講義・演習1,890分、

実習：課題設定240分、職場実習4週間、実習のまとめ180分